

2020年3月23日

九州から日本を動かす! Move Japan forward from 九州! (98)

前回お話したインドに4泊した後、ドバイ経由で南アフリカ共和国のケープタウンに移動し、イギリス留学時代の友人を訪ねました。奥さんが空港まで迎えに来てくれて、街から車で1時間ほどのフランシュフックという素敵な街にある自宅で4日間を過ごしました。彼のお嬢さんも、家族の友人が来訪することでオランダから参加してくれ、毎日近くのワイナリーやレストランを回り、景勝地を見学しました。本当に素晴らしいところでした。朝夕は涼しく、カーディガンが必要でしたが、日中は30度近くになります。

滞在したフランシュフックは欧州や南アフリカに住むビジネスマンなどが別荘として使用している家が多く、周りには大きな岩山があり、景色も素敵でした。

また、この地で働くサービス産業のスタッフのレベルの高さは本当に魅力的です。今まではフィリピン人のスタッフが英語もでき、一番サービスに向いているかと思っていましたが、ここで働く人々の英語レベルの高さと、笑顔に始まるサービス精神は世界一ではないかと思うほど素晴らしいです。レストランやホテルの至る所でそれを強く感じ、そのことを友人にも伝えました。サービス産業で働く人たちは南アフリカ人が少なく、近隣のナミビア、ジンバブエ、そして遠くではバングラデシュからもやって来ているそうです。自国よりも給料が高いこの国に、英語を覚えて働きに来ているので、英語力もサービス精神も実に高いのです。それでも給料は1日2,000円くらいだそうです。

インドで思ったことと同じことを私は強く思いました。それは、この国をまとめることの難しきです。南アフリカ共和国は昔ほどの人種差別はないということでしたが、依然として国民全体の貧困度はひどく、教育レベルも非常に低いため、周りの国々からサービス人材を受け入れざるを得ない現状があります。ケープタウンに行くとコンゴやナイロビからの移民のキャンプ地が都心中央に近いところまで迫っています。きっと治安も大変だと思います。

ネルソン・マンデラ元大統領によって大きな改善の流れが始まり、かなりの成果を上げたことは実に素晴らしいと思います。マンデラ氏の努力と実績を考えると、30年間GDPがほぼ横ばいで、15%あった世界シェアが6%にまで落ちながらも危機感が十分に見られないこの日本という国を動かすことは、今回訪問したインド、南アフリカに比べるとまったく次元の違う難しきだと感じました。「九州から日本を動かす」という使命にもっと真剣に取り組まなければならないと気持ちを新たにしつつ、エネルギーをしっかりと蓄えた11日間の旅を終えて帰国しました。

麻生 泰